

94
10
39

準貴

享保北一兩元又三寸同義年同四已未

公義被伸上十三

同四甲子

亨子保世一丙元文下元文二丁巳月之戌年日四巳

日六庚申月六辛酉寬保元改元寅人保二壬戌日二亥亥

公義裁部上

藏書出部

義ノ部

十番

日四甲子改元

書札方

日本國對馬州太守拾遺平

義如

奉書

朝鮮國禮曹大人 閣下

十雨催梅恭惟

貴國昭明實耐翹祝

本邦安寧莫煩

鈞抱爰

貴國慶尚道清河漁民貳名駕一小舟去年十一月十四日浮海捕魚俄遭暴風忽損船具回濟無術任吹萍流同月十八日漂寄本邦出雲州宇龍浦州主深加啓護達諸長崎廳司霧察啓聞東武循規附吾有司本月二十日轉解弊州教平定照送還焉

向所駕來之舟至小難越大洋今開拆之加載吾船併附回瑣品
別錄聊抒遠情
嚟納為幸統觀
垂鑑專祈
珍頤肅此不備

享保二十一年丙辰四月 日

對馬州太守拾遺平

義如

一、奉命往來貴州洋為四年
以多所公奉神我則果之其
貴至者高乃內清河者為人
少艱多經去乃十字深流
水作象儀而風法回轉經
紅果之物一以但風波海
十、分奉神雲晶之純補之

品を分たせたりとて物にたはると
公愾に遠く山を回らば少少の途程
よの山事よりけり多敷に云はれぬ月
十日警品に致忘の儀に衣類法等
使者平定照お所と使さる馬船に
取ると至極少取らば洋と家のみ不
たす少の因拵に深民用お
取品に身とて物載一併致と途
仍る程ありとて別に幅と色とを
南けり也

四月 日

日本國對馬州太守拾遺平

義如

奉書

朝鮮國禮曹大人

閣下

槐夏風薰^ス逝^ク仰^ク

貴國敦化就報^テ

本邦平治宣勝^ス懽愉^ス茲

貴國咸鏡道德源商民拾叁名乘一船積貯木綿將赴同道洪原買魚^ハ昨^ク年

十一月十三日發帆德源未到洪原風濤太惡檣楫共損進退失便同月二十六

漂抵

本邦石見州大濱浦船忽摧破人幸生存領主厚金^ニ後顧^シ達^ス諸長崎廳司檢察啓聞

東武隨例附吾有司本月二十日轉解弊州仍賑給口體直載吾船使攝茂尚

送還焉轉儀別錄粗旌遐悃

亮收為寵統希

盛亮肅此不備

享保二十一年丙辰四月 日

對馬州太守拾遺平 義如

和文

一第... 志... 檣

本邦石品の上流浦に海老の所
乃被紅山崎人本意を急いで
沈気なる世流の事柄に
公儀の遠山書目茶也傷に遠く
よの心事を以て家親の事柄あり
十日禁座の波と云はれし事柄あり
本品之類と稱載使若楊紙品
お所波流と云はれし事柄あり
色を今を流の南に之也

四月日

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

日本國對馬州太守拾遺平

義如

奉書

朝鮮國禮曹大人閣下

孟夏漸熱伏惟

貴國穆清豈堪歡抃

本邦泰和勿勞

遐想茲論

貴國全羅道羅州居民參拾七名乘一隻船去年十月初五日

到同道珍島買得牛馬同十二月十一日揚帆珍島將歸羅州

西廳恭起推折檣楫放湯洋中同月二十一日漂著

本邦肥前州道土肥浦領主勤加矜恤達諸長崎廳司

照察啓聞

東武憑規附吾有司本月初九日轉解弊州仍給祭廩
且修船械令藤明彌送還焉向所買得之牛馬原數
四拾在海擲棄在陸病斃今有九牛六馬一齊附回
別錄菲品聊致遠敬

祭畱為榮萬冀

宗亮肅此不備

享保二十一年丙辰四月 日

對馬州太守拾遺平

義如

和文

一第... 此... 牛馬... 祭... 宗... 享... 丙... 日... 對... 義...

四月廿五日 奉神形所品乃云批海
と海と形と方波乞方と世海
多海と云 公儀に云遂中事因知
如物と云遂と形との中事と云付と
家形と云と波而力と多禁品
波と形と海と云掃木治と云
波補中付使者若孫以弼と云
上と云と云所景中馬と云と云と云
惟と云と云批海と云所教記と云
存若中九取馬と云是事と云
中と云今と云一係と云と云と云
惟と云と云と云と云と云と云
南に云と云

四月日

朝鮮國禮曹叅議柳

儼

奉復

日本國對馬州太守拾遺平公閣下

槎便遠屆

華槭隨至憑諦

興居冲迪慰浣殊深漂海人口輒蒙

拯濟資廩治船又煩

護還感荷

隣誼欣謝曷已

盛貺謹領

厚意コト菲儀略表ス微忱コト統希ス

宗亮ノリ不備

丙辰年六月 日

禮曹叅議柳 儼

別幅

人參壹觔

虎皮壹張

豹皮壹張

白苧布伍匹

白綿紬伍匹

黑麻布叁匹

白木綿拾匹

花席叁張

四張付油芭貳部

黃毛筆叁拾柄

真墨叁拾笏

際

丙辰年六月

日

禮曹參議柳

儼

和

此札之持力以承涉密務之名以重
之事務存以物之正每度深民少故
物之收理之宜始分以彼是之廣濟
感入少事以救之宜從下志及以各
少而少之亦寸志斗之在望之以此
後

丙辰六月日

朝鮮國禮曹參議柳

儼

奉復

日本國對馬州太守拾遺平公 閣下

星槎遠涉

華翰隨辱從審

動止佳勝欣慰倍常漂氓既

勤拯濟又煩

護還寔出

隣誼感荷無已

珍貺多謝薄儀略申統布

崇亮不備

丙辰年六月 日

禮曹叅議柳

儼

別幅

人參壹劬

虎皮壹張

豹皮壹張

白苧布伍匹

白綿細伍匹

黑麻布叁匹

白木綿拾匹

花席叁張

四張付油芭貳部

黄毛筆叁拾柄

真墨叁拾笏

際

丙辰年六月 日

禮曹參議柳

儼

和々
 其札令抄凡以法法密勝之名
 珍重之由事有之物久深民法救
 亥成在送是系下以候階延不法示
 存以法珍愛亦之系掛也之及以表
 以而為儀之在是之山不後

丙辰年六月 日

朝鮮國禮曹叅議柳

儼

奉復

日本國對馬州太守拾遺平公 閣下

槎便鼎來

華札隨至憑詠

啓居清裕慰瀉倍品漂氓既

勤濟卹又煩

護還倘非

鄰誼之篤豈能每每臻至矧伊

珍貺感謝無已茲將菲儀略表遠忱統希

崇照不備

丙辰年七月

禮曹參議柳

儼平公

別幅

人參壹觔

虎皮壹張

豹皮壹張

白苧布伍匹

白綿細伍匹

黑麻布叁匹

白木綿拾匹

花席叁張

四張付油菟貳部

黄毛筆叁拾柄

真墨叁拾笏

際

丙辰年七月 日

禮曹參議柳

儼

和

牛札之形見公河沙密猪之名珍重
 之由奉存公他方深民也救設是名
 什之候晴經出丁寧し以之長丸毎之
 清江邊存公村臥也考物感謝云少
 少對公河を激少し品寸志と云致を
 不後

丙辰年七月 日

嘉保二十一年三月十六日

呈上

小京雍西帝六十九歲之當卯年八月
廿八日亥時中宮之王子二十三歲之即位
有之東山月八年号乾降之改元之由
朝鮮國古名無私家朱上譯官表
中國山後中越山世有遊法業內公望

十二月廿七日

御名

昔より此の如くは

年号改元之儀は此の如く國之同姓
民部主簿の如くは

育月旨

所名

此の如くは徳上を養成し

享保廿一丙辰年育月旨

所用書松平伊豆守に
此の如くは梅田富右衛門
介古美日記對談上

此の如くは伊豆守に
此の如くは伊豆守に
此の如くは伊豆守に

公方棟

赤馬 一匹

七歳
栗毛尺三寸二歩
素對分

赤馬 一匹

七歳
栗毛尺三寸二歩
素對分

此の如くは
此の如くは

右本系... 爲世友及爲

宰以有... 濟岩

新成... 濟岩

元文元酉辰八月十七日

濟老... 濟老... 濟老... 濟老... 濟老...

仕要細目北...

私儀... 早迷... 爲所...

甘... 出... 換... 元... 仕... 爲... 濟... 約... 之... 似... 若... 友... 之... 爲... 子... 世... 門... 仕... 公... 辰...

沙... 用... 書... 松... 平... 左... 右... 以... 道... 友... 日... 細... 書... 法... 公... 案... 爲... 記... 一... 上... 公... 地... 爲... 又... 止... 掃... 子... 有... 古... 之... 子... 人... 矣... 終... 之... 相... 借... 之... 子... 年... 於... 公... 仕... 合... 子... 書... 院... 之... 善... 信... 公... 不... 仕... 之... 上... 似... 不... 打... 續... 換... 色... 仕... 內... 院... 亦... 也...

為事中之... 傷之... 南... 府... 招... 延...
 上... 之... 有... 之... 中... 情... 友... 事... 好...
 以... 及... 進... 滄... 迷... 志... 為... 極... 甘... 好... 也... 也... 是...
 深... 及... 法... 合... 有... 世... 歷... 以... 上... 之... 友... 身... 好... 也... 望...

八月

齊若

右行... 故... 上... 乞... 皇... 德... 後... 上... 之... 齊... 若...

元文元富... 庚午九月十九日

佛... 國... 成... 年... 事... 之... 故... 定... 門... 改... 也... 洪... 以... 日... 錄...

去... 以... 事... 身... 身... 身... 則... 道... 法... 在... 書... 之... 每... 得... 到... 身... 緣...
 也... 德... 今... 日... 切... 又... 丹... 出... 改... 之... 完... 因... 活... 之... 後... 亦... 不...
 法... 矣... 身... 後... 之... 也... 吾... 子... 若... 性... 當... 善... 也... 亦... 事... 之...
 因... 活... 之... 後... 之... 也... 此... 用... 人... 指... 升... 以... 德... 善... 也... 亦... 付...
 活... 之... 善... 也... 法... 矣... 身... 後... 之... 也... 此... 用... 人... 法... 德... 法... 善... 也...
 善... 也... 之... 也... 亦... 後... 之... 也... 亦... 善... 也... 亦... 善... 也... 亦... 善... 也...
 亦... 德... 之... 也... 亦... 善... 也... 亦... 善... 也... 亦... 善... 也... 亦... 善... 也...
 一切... 矣... 丹... 善... 也... 亦... 善... 也... 亦... 善... 也... 亦... 善... 也... 亦... 善... 也...
 中... 以... 善... 也... 亦... 善... 也... 亦... 善... 也... 亦... 善... 也... 亦... 善... 也...

書守私條中上之也
一 宗中者
一 宗中者
一 宗中者
一 宗中者
一 宗中者

一 高切支丹之類族者
一 腹中者
一 腹中者
一 腹中者
一 腹中者

一 腹中者

所

元文元富夜九月十九日 宗對馬

三光月治

市下海

市下海

三光月治

元文元富夜九月十九日

古事類聚

以年數考之復得此名於列國之類
蓋人不知之也歷七月十日自
長安而還之候中其日之法
中書書之也而後之今日
中醫大補液之清道之
於其心亦以此使之在
古記

於列國之類猶得可之者或信
十四人之美之如之也七月十日自復得也
尚及之內長安而還之也復得也
之內或人猶免也其格二人之類
彼亦之類也其類也其類也其類也
中其大原之類也其類也其類也
其類也其類也其類也其類也
其類也其類也其類也其類也
其類也其類也其類也其類也

九月三日

市名

神波子古子切置張河包是古に上
市名

[Faint, illegible handwritten text in cursive script]

[Faint, illegible handwritten text in cursive script]

同日辰十月廿七日

先年壬午九月廿二日古用番中多務藤原公
少輔之弟少輔松平加賀守所領沙領分
能州風土郡捕務所之者其之統統十人
家之船之艘七十一人朝鮮國慶尚令
内長警誓之原令及破重之組之因之
滿元相殘十二人朝鮮國令書等相副
十月九日對州之者之及可也其行
使者本寺源之書等之附之送之江紀曾

春議之書簡初領之滯人少之贈也
目録滯人少之古名之宗有前也書
能領年未之字波也其有行也持見
少用者松平伊豆守所領之古番之書等
竹書等持系少其坊并也其之心也
少之又與は少持入將少之也其少也
和漢人少書等之少也書付て少也
少成少之少也其少也少也少也
少也少也

皇元

先年皇中上高松平加賀守相國等
周至那輪馬河者女之婿既十人等
船一艘七月十日胡鮮國産馬書乃内
長警上標名乃皮重書組内之備
中張十二人胡鮮國方書名相副使
乃皇中私中事年三月五日對列
者法中月名此味りそ又別陳之書
海一書乃之山書正(海)上夜可也其

使者相附乃送上胡地禮曹參議之書
乃并長胡鮮國漢人等之儀乃目錄
漢人等之書名乃定旨行也之書對船
漢人等之馬乃其持人乃之儀

十一月廿七日

宗對馬守

亦用番抄上通

長崎(高松)

萩原(高松)

は原(高松)用書(高松)一(高松)
書(高松)乃(高松)由(高松)入

他(高松)乃(高松)白(高松)乃(高松)乃(高松)
文(高松)乃(高松)

松平加賀守

但多無く文句先と云ふは初と申上云云

御書名箱ノ書ノ行ニ他

朝鮮國慶尚道之内長磐智上漂者之能州
鳳至郡輪馮町漂人相副來公從禮曹
春議之書翰

朝鮮國慶尚道之内長磐智上漂者
鳳至郡輪馮町舟之楊帆船十口人
宗漂人呈書英宗旨名之為書封

寫之通

朝鮮國方漂人日端州目録寫之通

右漂人船切之字

右之通書之上包書之又一之通

右之通書之上書仕人

朝鮮國禮曹參議柳 復明

奉書

日本國對馬州ノ太守拾遺平公 閣下

緬惟ノ郎辰

啓一居清裕贍進無已即接東萊府使所報則本年七月八日
貴國民人船隻漂到我長鬚者境島巖外津八月初日移泊半巖使各官問情則
漂民拾肆名俱以

貴國能登州鳳至郡輪島居民與販次船載白米壹千石本年七月初九日發白
大城中路忽遇惡風晝夜出沒於東海洋中所載木石幾盡投水而風雨轉甚
同日十八日漂到長鬚者境島巖外津所乘船隻抵觸於洋中巖石片片破碎拾
肆名急下於汲水小船各自圖生而跳出海邊之際貳名則仍滄死旋風濤拾
貳名則僅能得生地方官盡力救恤滄死貳名屍體亦極出棺斂移歸
本邦船隻次曳來今始回泊此處而敗船時所失木石器什等物亦為極出

貳名屍體既已從願埋瘞於館後山云云茲將各人等並資給衣糧須
歸船統布

宗亮不備

丙辰年八月日

禮曹參議柳

復明

和文

平下為出空國地之事為死
予等身所及之事也
十以之國如一艘長鬚者內考

少時波濤之勢八月二日午時浦に
漕之波亦多し以て漕船は舟中
高貴米子六百俵積り浦に七月九日
大坂に志し波出帆し舟中悪風起り
洋中二艘一人程を積り米大形別控
少時大風起り漕船は舟中八月八日
内を志し舟中波濤之勢舟中
及波船は舟中一人程を積り米大形別控

お佛の御十二人今と相仲り舟中
二人波濤死し舟中一人加ふ
甲邦の舟中一人舟中一人舟中一人
死骸も舟中一人舟中一人舟中一人
積米と漂氏同舟舟中一人舟中一人
波沈海に舟中一人舟中一人舟中一人
舟中一人舟中一人舟中一人舟中一人
舟中一人舟中一人舟中一人舟中一人
舟中一人舟中一人舟中一人舟中一人

月日

料米拾貳斗

真油壹升玖合捌分

大口魚陸尾

乾魚肆束貳尾

耳醬陸升

鹽肆升貳分

白蛤鹽肆升貳分

藿壹斤拾伍兩玖錢捌分

際

右者能登州漂民十二人自八月初二日夕以初七日朝

至合一五日所供

丙辰八月日

料米拾貳斗

真油壹升玖合捌分

大口魚陸尾

乾魚肆束貳尾

耳醬陸升

白蛤鹽肆升貳夕

鹽肆升貳夕

藿壹斤拾伍兩玖錢捌分

右者能登州漂民十二人今八月初七日夕時以十二日朝時至合五日所供

丙辰八月初七日

料禾拾貳斗

白蛤鹽肆升貳夕

鹽肆升貳夕

藿壹斤拾伍兩玖錢捌分

真油壹升玖合捌夕

耳醬陸升

大口魚陸尾

乾魚肆束貳尾

右者能登州漂民十二人今十二日夕時以七日朝至

合五日所供

丙辰八月日

料米拾貳斗

白蛤鹽肆升貳分

鹽肆升貳分

藿壹斤拾伍兩玖錢捌分

大口魚陸尾

真油壹升玖合捌分

耳醬陸升

右者能登州漂民十二人今八月十七日夕以至廿日朝至合五日所供

丙辰八月日

料米拾貳斗

白蛤鹽肆升貳分

鹽肆升貳分

藿壹斤拾伍兩玖錢捌分

真油壹升玖合捌分

大口魚陸尾

乾魚肆束貳尾

耳醬陸升

右者能登州漂民十二人今八月二十日夕以至廿七日朝至合五日所供

丙辰八月日

料米拾貳斗

白蛤鹽肆升貳分

鹽肆升貳分

藿壹斤拾兩玖錢捌分

真油壹升玖合捌分

大口魚陸尾

乾魚肆束貳尾

耳醬陸升

右者能登州漂民十二人今八月二十七日夕以九月初百朝至合

五日所供

丙辰八月日

料米拾貳斗

白蛤鹽肆升貳分

藿壹斤拾兩玖錢捌分

真油壹升玖合捌分

大口魚陸尾

乾魚肆束貳尾

耳醬陸升

右者能登州漂民十二人今九月初二日夕以
初七日朝至合五日所供

丙辰九月日

料米拾貳斗

白蛤鹽肆升貳夕

鹽肆升貳夕

蕪雀壹斤拾伍兩玖錢捌分

真油壹升玖合捌夕

大口魚陸尾

乾魚肆束貳尾

耳醬陸升

右者能登州漂民十二人自九月初七日夕以十二日朝至

五日所供

丙辰九月日

料米拾貳斗

白蛤鹽肆升貳夕

鹽肆升貳夕

菴雀壹斤拾伍兩玖錢捌分

真油壹升玖合捌分

大口魚陸尾

乾魚肆束貳尾

耳醬陸升

右者能登州漂民十二人今九月十二日夕以十七日朝至

合五日所供

丙辰九月日

料米拾貳斗

白蛤醃肆升貳分

鹽肆升貳分

菴雀壹斤拾伍兩玖錢捌分

真油壹升玖合捌分

大口魚陸尾

乾魚肆束貳尾

耳醬陸升

右者能登州漂民十二人今九月十七日夕以二十二日

朝至五日所供

丙辰九月日

夜資木拾貳匹

渡海糧米捌石

際

丙辰九月日

右者能登州漂民十二人分給

海帶叁斤

明大貳拾尾

紅柿叁拾箇

清酒壹瓶

際

丙辰九月日

訓導
別差

以上之元

一 稅之儀 松平如聖等所定 能列國至部
海防所可者 多之在 亦主名 十人
宗祖 弟之 積水 高貴 上取 志 七 九

痛修初航極の事流之れと目し七上
 七州津の流と目し斜の勢南風を吹
 津洋中津船好幸より南風津對
 其の勢津方角交相の言中風波
 津の勢津方角と揺垣の事下り好
 切掛の言又能く方山と目し掛の
 事掛の言と沖の事瀬らと目し及船
 の付船の言及宗瀬漕舟の下り
 傳りての事也捨戸の事者其勢
 七の言水丈の言坊戸島七言馬の言者
 溺死は言抄拾或の言者其傳り或船板
 死付お舟の言山行の言及舟の言
 舟向未は言方相見の言方人家の言
 舟山と教系の言及人其舟の言
 七の言系り禎及地朝鮮の言及改修の言
 一形或行方の言船の言及舟の言
 能州輪船の言山形屋兵七言舟の言
 舟の言

一 穀書未... 事... 痛...

... 類... 艘... 舟...

... 舟... 舟...

一 食具... 舟... 舟...

... 舟... 舟...

... 舟... 舟...

... 舟... 舟...

一 令... 舟... 舟...

... 舟... 舟...

... 舟... 舟...

一 朝鮮人... 舟... 舟...

... 舟... 舟...

... 舟... 舟...

... 舟... 舟...

一 積物... 舟... 舟...

... 舟... 舟...

... 舟... 舟...

一 積... 舟... 舟...

... 舟... 舟...

神心より少くして先中し播世津一等并
かゝる後居の米瀬方より流るる
朝鮮人の方を揚子江の流るる
用之る事其具に成るる海島に
少くも送る事及て善方にて
取捨せしむる法及て其の
種を以て事として其の
海牙にて法を以て其の
波海にて法を以て其の

解船之法有て送る事其の

一 補給出帆の法使て其の

其の法を以て使て其の

一 視て由之の法使て其の

其の法を以て使て其の

一 溺死法或人者其難知人

毎揚子江の法使て其の

以て其の法を以て使て其の

以て其の法を以て使て其の

所とお送下さる彼方と對面浮合

お預けの事と申すは先づ治承法印の事

申すは月幸申取の事と申すは先づ

申取の事と申すは先づ申取の事と申す

申取の事と申すは先づ申取の事と申す

申取の事と申すは先づ申取の事と申す

申取の事と申すは先づ申取の事と申す

申取の事と申すは先づ申取の事と申す

申取の事と申すは先づ申取の事と申す

申取の事と申すは先づ申取の事と申す

申取の事と申すは先づ申取の事と申す

申取の事と申すは先づ申取の事と申す

申取の事と申すは先づ申取の事と申す

申取の事と申すは先づ申取の事と申す

申取の事と申すは先づ申取の事と申す

申取の事と申すは先づ申取の事と申す

申取の事と申すは先づ申取の事と申す

申取の事と申すは先づ申取の事と申す

申取の事と申すは先づ申取の事と申す

申取の事と申すは先づ申取の事と申す

申取の事と申すは先づ申取の事と申す

申取の事と申すは先づ申取の事と申す

亥山对则危。中上公尤幸。此又否。否者
 者。发之。以少。以是。破。解。之。以。书。指。出。

一 志宗 威六拾二策

生能州 其以修九高

一 田宗 同三拾八策

去集

一 田宗 同二十策

万台

一 田宗 同二十策

七集

一 田宗 同三拾八策

清溪

一 田宗 同三拾七策

去集

一 田宗 同二十策

五集

一 田宗 同三拾二策

六集

一 田宗 同三拾二策

又少

一 田宗 同三拾二策

七集

一 田宗 同武拾二策

去集

一 田宗 同二十七策

二集

一 田宗 同二十策

又集

一 田宗 同四拾二策

五集

一 田宗 同二十八策

七集

右之通涉存公心

十月九日

水寺

右村律子名所撰
味本全名所撰
書法政書所撰

此本字

松平加賀守所分能州風至新橋橋可
兵部為船十甲人宗宗旨相改如書
上付公宗如清之海之隨法法所撰
下記法所撰南之也

松平加賀守也

享保貳拾年三月十日 淺井鐵江

浦之也配年

元

- 一 潘米拾八俵
- 一 傳多船津拾八年
- 一 船津之角拾年
- 一 傳多船津拾年

右名積殿

一 播切三ツ

一 船津拾貳年

一 鉄礎貳次

一 菅子總貳房

一 目切六節

一 帆棚貳切

一 竹弓小旋きり

右名上右世宗元貴拂度等好之

十月十二日

卯吉馬
卯吉馬

情多屋

卯吉馬

右名世宗元親上り右世宗元親上り

卯吉馬

情多屋

卯吉馬

十月十二日

船津及右世宗元

口上元

一胡鮮必慶尚道內法河之漢民二人
宗和一殺之於風去之○十一月十八日
重列之於浦口改漢名

一因咸鏡道內德源人十二人宗和
一殺之於風去之○十一月十八日
浦口改漢名

一因金海道內羅列之七民二十七人

宗和殺之於風去之○十一月十八日
道去於浦口改漢名

右漢人胡鮮必之送也其文坎札曹
宗和送務書其法公依之為法按見
漢人宗和書其右年其具於西書其
抄原卷其○

二月十六日

宗對馬守

朝鮮漂流人口上書

一 秋之俄期能此處尚道內法行等
而者有沙流公六月官為小船
安地俄探二如暑三以夏四西風五流於地意
以吹放如具と換一二便風三波漂流同
十方何國一之好二流方三流多四以五建
浦人一都二進三之四以五地六流七清八入九切十
雲列一字二水三浦四戶五候六改七水八知九以十每十一人十二

多入是之痛品物不確信之信
症後未之知也心字一人之信不如此因在
長海之志望其古之法年以有之其為
博流之文才之持也為公二月本台長海表
宗船今十日對列出船法之老列
船中之心信之法以花之信有信有信
多也也

一秋之宗首之儀之法以常之觀者

新進之念一也

潘氏若年

年二十三 李トイ

月二十七 李クニナキ

船具并新物

一船一被 長桑子守
橫方人守

一櫓一挺

- 一 水竿一本
- 一 河の丸一
- 一 之繩少
- 一 細引物六丈程
- 一 葦の束籠一

辰三月十日

朝鮮漂流人口名書

一 杖儀船器園威境道の内徳源寺也
 者与之在船十二人一艘家流之有子
 十之同道の内洪家言一在也志也也
 種奥乃酒如砂如俄西凡烈之如北比意
 以初播梅と類し舟但月漂流法向
 舟之石列大流浦上漂流志仕如家如
 波破世の早達舟人如也之改取靴也願

正分法以統老... 十二月... 正月... 二月... 三月... 四月... 五月... 六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...

潘氏名表

年二十六	南ハイムニ
同二十三	元ホクゲリ
同十六	方ムセニ
同十六	許イキ
同二十	黄メムニ
同十六	金セニ
同十七	李三六

一 蓮十六枚

一 莖五枚

一 板平七枚

一 羊入以口

一 粟入以口

一 豈入以口

一 本沙之箇

一 話三枚

一 是門的一

一 手介三挺

一 誰一本

一 擊之六本

一 本挺一挺

一 莫沟道之了

一 危丁一挺

一 子与挺一挺

- 一 卷二
- 一 胡舒統集卷九
- 一 卷七
- 一 德利二
- 一 卷七及
- 一 卷一

在口月十日

胡舒統集人以此書

一 秋之儀形鮮也全既道之內羅加集
 之民之有之此也二十七人一如安然也
 十月十日因各內海路官牛馬為網
 子我士一月十日海不無概仕如西凡
 烈之如我地方之以此教橋樑之亦
 船具之換一以對紅凡海流法因矣
 此亦如道之如我波海志以是之運浦人

抄考之式次第... 長流表... 文牛十丁又... 長流表... 沙流... 柳...

一 秋之... 秋之... 秋之... 秋之...

年卒 同卒五 同甲十 同三十八 同二十六

安ニシフダ 安ニシニエシ 金ニシハギ 李フバヒ 柳ハニシク

同二十
同二十
同二十
同二十
同二十
同二十
同二十
同二十
同二十

梁ア一カイ
康ウ二エシ
高シワシ
李ト二エシ
李ト三ウ
李ホキ
白セケキ
姜セクク

同二十
同二十
同二十
同二十
同二十
同二十
同二十
同二十
同二十

李セハク
洪トクウニ
仁ナニヨリ
康フフキ
背イルウニ
安ナクニ
宋ナクニ
宋セユ

日二十
日四十一
日四十一
日二十四
日四十一
日四十一
日四十一
日四十一
日四十一

姜フバキ
金カイハニ
金クニセギ
金ハクウシ
姜ノセキ
文ゾセニ
字ナクニ
情トクニ

日二十四
日二十四
日二十三
日二十三
日十九
日二十四
日二十三
日二十三

鄭タイナ
金イセニ
李ウナギ
月フシヤキ
言シクイ
白ニシク
事ナクニ
言ニシキ

北風并前物

一 重一級 長十寸五分 短二寸五分

一 牛九支

一 帆二張

一 櫓三張

一 碇二只

一 舟半九隻

一 凡草木五半

一 馬二支

一 櫓二隻

一 帆二張

一 碇三隻

一 蓬九段

一 篋板十段

一 津々木四

一 以字一

一 以字二

一 以字三

一 以字四

一 以字五

一 以字六

一 以字七

一 以字八

一 以字九

一 以字十

一 以字十一

一 以字十二

一 以字十三

一 以字十四

長
四月十日

返務箱上書

雲列之清浦、深志之胡餅、送有以付、送曹魯藏之返務箱、并別幅

石列太廣浦

池前道去肥浦

深氏呈書上卷

雲列之清浦、深志之胡餅、口上書、并各年如具、送務箱書

石列太廣浦

池前道去肥浦

池前道去肥浦

元文三年二月

今般也、能、送、務、箱、上、書、并、各、年、如、具、送、務、箱、書

石列太廣浦、池前道去肥浦、口上書、并各年如具、送務箱書

今般也、能、送、務、箱、上、書、并、各、年、如、具、送、務、箱、書

今般也、能、送、務、箱、上、書、并、各、年、如、具、送、務、箱、書

今般也、能、送、務、箱、上、書、并、各、年、如、具、送、務、箱、書

今般也、能、送、務、箱、上、書、并、各、年、如、具、送、務、箱、書

今般也、能、送、務、箱、上、書、并、各、年、如、具、送、務、箱、書

之身以修其子。而新者沙之在公在
之身以修其子。而新者沙之在公在
之身以修其子。而新者沙之在公在
之身以修其子。而新者沙之在公在

元文二己年

三月二日

宗對馬守新判

松平左近將監及

松平伊豆守及

中務大輔及

右新成也打 出信成之新封之古官判封之

元文二己年六月十日

中務大輔大補松山周人中公也當也若若
中務大輔大補松山周人中公也當也若若
中務大輔大補松山周人中公也當也若若
中務大輔大補松山周人中公也當也若若

若石極沙渡生... 使者... 法友... 飛南對馬... 書... 少... 左... 記... 之...

元

一 卷... 院... 極... 沙... 渡... 生... 者... 胡... 群... 國... 者... 信... 使... 沙... 渡... 中... 上... 六... 常... 憲... 院... 極... 幕... 所... 同... 子... 西... 元... 濟... 代... 者... 身... 為... 沙... 渡... 後... 使... 信... 使... 沙... 渡... 生... 者... 德... 松... 極... 沙... 渡... 生... 者... 常... 憲... 院... 極... 濟... 代... 者... 身... 為... 沙... 渡... 後... 使... 信... 使... 沙... 渡... 生... 者... 以... 沙... 渡... 生... 者... 身... 為... 沙... 渡... 後... 使... 信... 使... 沙... 渡... 生... 者...

云元公之彼土方沙夜夜其軍云々

一文昭院標 沙若君標云為成以之

初辨書云夜儀以信使之上上

中字以り、句句推抄之信少と軍同如

之有と夜中二夜推抄方云 抄言

之儀夜推抄以知對州之澤官云後

之儀夜云々

一人約云標沙江之長杉形氣云以使者

中在い骨儀必、分對別と澤官云後

少夜夜中と一花下上、方某如

澤官通と中花下上、仍對別と

澤官云後、少夜夜中と上云

以上

宗對馬

六月

樋口高直

元文二乙子六月十三日

竹文様沙汰七枚沙汰後増し
也沙汰法より有り沙汰網書
用書中多中勢之補抄は去る
り好も山面取抄其半集、由漢
以文真正入抄より好也
殿様 沖流衣様より丸札より
沙汰後文二乙子六月十三日

口上

沖之七枚沙汰後儀對馬より元
り申す申す一丁より申す何れ
六月十三日 宗對馬より
去る無久七馬

口上

沖之七枚沙汰後儀對馬より元
り申す申す一丁より申す何れ

一切舟子... 漢書... 漢書... 漢書... 漢書...
一切舟子... 漢書... 漢書... 漢書... 漢書...
漢書... 漢書... 漢書... 漢書... 漢書...
漢書... 漢書... 漢書... 漢書... 漢書...
漢書... 漢書... 漢書... 漢書... 漢書...

古書... 古書... 古書... 古書... 古書...
古書... 古書... 古書... 古書... 古書...
古書... 古書... 古書... 古書... 古書...
古書... 古書... 古書... 古書... 古書...
古書... 古書... 古書... 古書... 古書...

沙粒網中... 法交... 新法... 高... 之... 以... 之... 之... 之...

六月

御若

家千代... 若知... 之...

之...

宗... 檀...

八月

八月十五日 右...

法... 之... 之... 之...

此乃... 使... 例... 書... 上... 上...

八月

宗對馬... 世口...

己八月十八日... 書...

白... 與... 書... 記...

胡... 國... 記... 書... 上... 上...

尚書 然色山の夫共余の儀尚書お見え不
しといふは世為の事為準し例格を以て
沙衣の式對如くも逢し越は味仕進名
し上の如し

八月

宗對馬守

樋口尚書

料城中在書事切長法城と書書包法

一 係中在書事切長法城と書書包法
日好長部と稱家来下と云ふ者其好
不書法云控と云ふ事

元文二丁巳年七月十八日

御名

江原列
山根列

二 宅内跡

本末経

本末行

三 宅内跡

日辛十月廿五日

病後原竹皮板法此丸為今
以後成法活者板是動後分用者
相平古道相者板是動後分用者
用者板是動後分用者
用者板是動後分用者
用者板是動後分用者
用者板是動後分用者
用者板是動後分用者

元

一五九年 法以位分也元活者此
為書動也此也此也此也此也此也此也
相因如使札上各之出也
一竹中板此七初也後成之也活者此
之也後成之也相因如使札上各之出也
也

十月廿五日

法以位分也元活者此
為書動也此也此也此也此也此也此也

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written vertically on the left page of an open book. The characters are dark and appear to be in a traditional East Asian script, possibly Chinese or Japanese. The writing is dense and fills most of the page.

室元唐德元海流是人之所知及時
 人冬不極其日之中是定之可也
 上事以年書日也德十之十日
 以右極其日也亦不極其日也
 子之當是也其日也亦不極其日也
 名如也其日也亦不極其日也
 少之書分也其日也亦不極其日也

朝鮮初版古對列正師執之私積為也

之見

- 一 夕如二艘
 - 一 樂他人致其八人
 - 一 朝鮮宮車千或百八德
 - 一 上之人參十中 六年 聖德二十一年
 - 一 在貴人參十中 七年 聖德二十二年
 - 一 法冊或中八百十三年
- 古之天子十月古言初版也其法以愛之海中之

多世世及年何心之

十月

冲岩

竟

一文昭院振冲吉者振高为快言物能
固より對列と云言店名後以程後中云

一有刑言振冲法之長物能亦對列と云
後店名後以程後中云

心之

其月

己酉年十月

竹東父振平年以心言方心父也心
心大冲讓者振高也心言心言
心言心言心言心言心言心言心言
心言心言心言心言心言心言心言
心言心言心言心言心言心言心言
心言心言心言心言心言心言心言
心言心言心言心言心言心言心言

竹東父振平年以心言方心父也心

田畠方六百六拾七石七斗

石之富其界之指无仕以望

十一月之日

御名

右村政吉書

松平左近将監

松平伊豆守

松平仲智

母菊深流人

一秋之儀物数固全灌道之内必与入灌

是地以正納以為籍反云平定月

十人宛武殿事相日道之内灌列

壬戌日九月八日洪州地枕江名嶽連岡
名般洋中一設放船以舟之般名般名
風波浪橋樑子換以紅風波漂流日十月
上言行國大石山下江流分以浦金卷
小處子外正宜秋秋抱以地之於石水母
行水子成石石十石之當二月石石石
石石石石石石石石石石石石石石石
石石石石石石石石石石石石石石石
石石石石石石石石石石石石石石石

十月丁酉

御名

壬戌日十月八日洪州地枕江名嶽連岡
名般洋中一設放船以舟之般名般名
風波浪橋樑子換以紅風波漂流日十月
上言行國大石山下江流分以浦金卷
小處子外正宜秋秋抱以地之於石水母
行水子成石石十石之當二月石石石
石石石石石石石石石石石石石石石
石石石石石石石石石石石石石石石

松平元進和堂柳

松平伴夏吉柳

松平伴智清柳

一筆改改之公物群國全羅府之內

與陽之吉之入事般一艘之放月去年

十月六日平之領小徳賢為改漢出少
松浦紀元等奉命告漢以所領之事
於彼地之令後私與來之者彼別
使名由副彼國之使者從禮曹兼
通譯彼國之修力及彼國漢文之書
并如具所物之書付由漢方之使者
漢文

十一月十日

十二月十八日

物氣國令齊乃之月乃之漢文十人
云云年九月八日薩列事書之漢文曰乃
之內具湯之云云云年十月六日紀平平
願小徳賢之令漢文物氣之云云云乃之漢
禮曹兼通譯通物之書付由漢方之使者
彼國之使者由漢方之使者由漢方之使者
之書之書之書之書之書之書之書之書

一戦の家名を成すは尋常の如く記す所
念り作

潘氏若年歳行

年四拾八

全サモルツイ

日四十九

全ニユリ

日三十二

ホホクセリ

日二十

宵アクトリ

日二十九

文ニタツセニ

日二十九

文ニユテニ

日二十一

ホホセンタミ

日三十六

女トイセヒ

日四十一

日チヨテニ

日二十九

日カクカニイ

日二十九

日イセニ

日四十六

日ニユニヤキ

日二十九

日チムニ

日二

女子ノリムシヤ

右邊多クハ船ニ乗リ船中ニ居ル者

年二十七

類テニソイ

日二十一

朴ニシホキ

日二十七

金ニクナニ

日二十四

金ニテムトリ

日二十二

文カイセニ

日二十二

金モリトリ

日二十六

金ニタクソイ

日二十八

金セキヤキ

日二十二

慎ニロソイ

日二十四

雀セニ

日十九

金モクトリ

日二十八

女セニエヒ

日二十二

日ヲクシヤキ

日二

女子セクニ

右彼船之乗浮名之船家り物り

船具并行物

一船一艘 長十八尋之入 一橋二本

一帆二張 一櫂六挺

一楫一册 一碁二房

一碇一匹 一柳二口

一釜一箇 一湯一

一水瓶二 一櫂及口

一瓢二 一釜一

一罌二口 一白芥口

之

長六寸五分

船解浮流人の書

一初之候船解至全室及月具陽者若

云候者地は善海舟の洞は数者

公設舟一人一船全室年為

十月廿五日、高松出帆、如月波法、長持新
橋、三波、之後、右、江、河、流、行、八、平、戸、以
小、橋、為、橋、渡、出、江、河、浦、合、出、書、以、及、抱、下
之、在、以、後、人、元、也、右、科、也、以、後、下、日、上、台
之、可、也、如、以、以、右、科、也、右、科、也、右、科、也、右、科、也、
以、後、以、以、以、以、以、以、以、以、以、以、以、以、以、以、以、以、
高、月、中、也、右、科、也、右、科、也、右、科、也、右、科、也、右、科、也、
長、治、の、如、中、一、心、以、以、以、以、以、以、以、以、以、以、以、以、以、以、以、以、

仕合の如也

一、概、と、宗、右、之、良、也、如、月、身、作、常、親、也、
概、述、と、之、也、也、

治政元年

年六十八

まのいじり

日二十九

金トクカキ

日二十九

梅クソイ

日二十日

金ニニソイ

日二十日

全一

船具並行物

一船一艘

長十四尺或十八尺
横五尺或六尺

一櫓一巾

一帆一法

一櫂二挺

一水竿二支

一古之板

一美板二十枚

一本艇一匹

一繩四房

一壺一

一釜一

一布袋一

一靴三

一覽

辰
十三日

日本國對馬州太守拾遺平

義如

奉書

朝鮮國禮曹大人 閣下

但暑仰惟

貴國輯和

本邦無為茲諭，本年三月十四日

貴國全羅道順天，生民十八男，十女，駕壹隻船，漂寄

本邦薩摩州串木野，審問，原係客歲四月二十日乘貳隻船

到于同道濟州，而採鮫，九月八日揚帆將歸，猝遭逆風，一艘已

破，兵各乘一艘，所乘之檣楫亦損，回旋失便，放蕩洋中，十月

十二日所漂抵不知何國也浦人忽出俾登陸寓處且雖與糧
撫存言語不通州名莫辨本年三月三日依浦人之指教解纜
任風漂轉同月十四日到此云州主深垂愛顧送諸長崎廳司覈察即啓
東武遵規附吾有司本月二十四日到著弊州資與絮廩修補本船
今差藤元安送還焉輜略土宜錄在別箋

麾頓幸甚總覲

雅諒肅此不備

元文元年丙辰六月 日

對馬州太守拾遺平

義如

一航之來此中邦落難列年本野
深志身流流之身事以志去心冥
丈日之艘亦能回道內海列島後乾
者九月八日海列波歸帆是又賊送感念

十二日所漂抵不知何國也浦人忽出俾登陸寓處且雖與糧

撫存言語不通州名莫辨本年三月三日依浦人之指教解纜

任風漂轉同月十四日到此云州主深垂愛顧送諸長崎廳司覈察即啓

東武尊現附吾有司本月二十四日到著弊州貧與繁稟修浦本船

今據元安送還轉略上直錄在別錄

和文

一、中、之、世、之、公、老、國、海、之、島、山、年、安、海、之、島、
本、邦、之、列、島、之、海、邊、有、公、老、之、山、也、三月十日
之、國、全、船、返、之、日、以、天、之、者、男、十、八、人、其、人
一、船、之、名、也、本、邦、之、海、邊、有、公、老、之、山、也、
深、老、之、身、深、流、之、身、也、其、身、也、其、身、也、
其、身、也、其、身、也、其、身、也、其、身、也、
其、身、也、其、身、也、其、身、也、其、身、也、
其、身、也、其、身、也、其、身、也、其、身、也、

一艘之及被船之在一艘之乐被也之是也舊博
損之回桿能成洋中一處而夫月三日定
玉好木及淺之水之浦人必為陸揚水也
掛之在會物之無上及抄托之是之為之會
公國之年夫之好也又也之三月三日浦人
波之帆也之能也之于一也之身也之風
以是波也帆也之月十日也之邦之慶也之
年之好也之波也之好也之好也之好也
之好也之好也之好也之好也之好也
之好也之好也之好也之好也之好也
之好也之好也之好也之好也之好也
之好也之好也之好也之好也之好也
之好也之好也之好也之好也之好也
之好也之好也之好也之好也之好也
之好也之好也之好也之好也之好也
之好也之好也之好也之好也之好也
之好也之好也之好也之好也之好也

六月日

決書

朝鮮國禮曹叅議柳

復明

奉復

日本國對馬州太守拾遺平公 閣下

護船特來

華札隨至就審

啓居冲裕慰浣實深漂海人口既

垂撫存又

勤津送

鄰誼彌篤豈勝欣謝別幅

珍品尤荷

眷意^ツ甚宜^ハ回敬^ツ良愧^ハ菲薄^ツ統希^ク

崇照^ヲ爾此不備

丙辰年九月 日

禮曹參議柳

復明

別幅

人參壹觔

虎皮壹張

豹皮壹張

白苧布伍匹

白綿紬伍匹

黑麻布叁匹

白木綿拾匹

花席叁張

四張付油芭貳部

黃毛筆叁拾柄

真墨叁拾笏

際

丙辰年九月 日

禮曹參議柳

復明

此手書係公府之潘氏夫以及抱不計
少使者之心送送送送送送送送送送
而台似謝法台於支國錄之也送送下
衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣
之飯

九月 日

花席叁張

四張付油范貳部

黃毛筆叁拾柄

真墨叁拾笏

鄂曹參蕭咄

蘇服

丙辰年九月 日

和

老札河江見公金以沙與勝為馬
 珠身好公物之深民夫以及抱不
 少使者公心送送送送送送送送
 而公飲謝法公物支因珠之包送下
 衣身好公物之深民夫以及抱不
 之飯

九月 日

朝鮮國禮曹參議柳

綖

奉復

日本國對馬州太守拾遺平公 閣下

樣便遠屆

華棧隨至憑諦

啓居清裕慰沃良深漂氓旣蒙

濟恤又

勤津送

隣好采篤曷勝感荷別幅

珍品謹領

厚意不腆土宜聊表微忱統希

照亮不備

丁巳年四月 日

禮曹參議柳

綖

別幅

人參壹觔

虎皮壹張

豹皮壹張

白苧布伍匹

白綿細伍匹

黑麻布叁匹

白木綿拾匹

花席叁張

四張付油芭貳部

黃毛筆叁拾柄

真墨叁拾笏

際

丁巳年四月 日

禮曹參議柳

維

法使札收... 禮曹參議柳... 謹啟

丁巳年四月 日

朝鮮國禮曹大人 閣下

歲序闌珊杳以

啓居珍勝企望良塵茲諗

貴國全羅道興陽居民五名爲調海參而紉官府乘船
壹隻到于平嶋本年十月六日開帆俄遭颶風旣損船
具放漾洋中同月八日漂寄

本邦肥前州平戶領主特加眷憐送諸長崎廳司照驗

朝鮮國禮曹大人 閣下
歲序闌珊杳以
啓居珍勝企望良塵茲諗
貴國全羅道興陽居民五名爲調海參而紉官府乘船
壹隻到于平嶋本年十月六日開帆俄遭颶風旣損船
具放漾洋中同月八日漂寄
本邦肥前州平戶領主特加眷憐送諸長崎廳司照驗

啓聞

東武循例附吾有司本月二十一日解屆弊州仍與衣糧差
藤英信送還焉向者所駕之舟至小而不利巨涉故開
拆與渠輩同載吾州船一併附回未錄雖越

叱收孔幸總布

宗諒肅此不備

元文元年丙辰十二月 日

一、
本邦後列未定事所成然其主國今之世道
身陽者又一取定地之儀其約以海參
為烟平過之其裁以十月六日其末波
就帆其又風波流其如其具之損其風波
漂流因月八日其邦北其其年之其之
其月從之其北之其之其海之其其送其

己十二月廿八日

年既之冲在刀、然之、後、分、高、月、以、用、最
松平九王、松平監攝、正、月、以、用、高、松、平、河、原、重、隆、
西、古、丸、附、松、平、能、登、重、隆、山、南、吉、原、重、隆、之、後、
吉、原、重、隆、之、後、和、書、持、重、隆、先、在、正、月、監、攝、松、平、
重、隆、上、面、後、書、持、重、隆、之、後、與、正、月、入、松、平、
重、隆、上、面、後、書、持、重、隆、之、後、與、正、月、入、松、平、
重、隆、上、面、後、書、持、重、隆、之、後、與、正、月、入、松、平、

右邊一紙分法及在紙中松平伊豆守御
政事上之取次三編評定書日而後在右
書事等之定實之極日等之在
山原中在右中書抄後山原御定之
上中書抄後

右邊分松平能也書抄右側人等
右側治書日而後山原御定之
右紙

口上見

公方様 大納言様 竹千代様 年改治太刀
然上之儀法合之者之口上之儀

口上見

十二月廿八日

宗對馬守
三浦七郎

右首月山月書末山月山月書之世宛

口上見

大納言様 竹千代様 年改治太刀 紙上

二日法中九日抄納戸以上後出也戸上以上望

十二月廿八日

宗對馬守
三浦七左衛門

右松平能光右衛門

口上見

公方様大納言様竹千代様宗民助之補
年改御右刀執上之儀法合之者志之
戸上以上後出也戸上以上望

十二月廿八日

宗對馬守
三浦七左衛門

右富月御用者末正月御用者口上見

口上見

大納言様竹千代様口宗民助之補
法中九日抄納戸作
後出也戸上以上望

十二月廿八日

宗對馬守
三浦七左衛門

右松平能光右衛門抄紙何處中書

書色在

元文之戊午年正月五日

美珠院極令院遊云々旨以長辨之印書

少用長辨印書之印書之旨以長辨之印書

抄書之旨以長辨之印書之旨以長辨之印書

少用長辨之旨以長辨之印書之旨以長辨之印書

諸院別 諸院別 諸院別 諸院別 諸院別

抄書之旨以長辨之印書之旨以長辨之印書

少用長辨之旨以長辨之印書之旨以長辨之印書

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '元文' and '正月五日'.

存子知母事母人院高死仕作
忘投以心口在

父方

伯母

宗對馬

忘二十日

中月十日

日十日

一 張九十日

中月十日

日十日

妹

瑞后

宗氏始大捕

忘二十日

中月十日

日十日

張九十日

中月十日

日十日

心

宗氏始大捕

忘二十日

宗氏始大捕

西九松平能也
當子若也
本村每所須
と後重也

元文二年正月十日

竹千代極然少遊中
上公身訪官
今則中宮存精六補

河本書
竹千代極然少遊中
子孫
之成
早送

十二月二日 印岩

山陰
二所何也

光緒二十二年... 漢河... 豐... 友... 同... 河... 年十月... 序...

十二月二日
四月十日

沛君

四年正月十日

明... 存... 精... 補... 效... 用... 中... 小... 心... 而... 為... 善... 事... 功... 效... 卓... 著... 可... 為... 萬... 民... 所... 幸... 矣... 臣... 等... 謹... 此... 具... 奏... 伏... 乞... 聖... 鑒... 訓... 示... 謹... 奏... 光緒二十二年... 沛君...

此後之世也

此後之世也

午正月廿七日

此後之世也

心之見

此後之世也

心之見

心之見

心之見

午正月廿七日

此後之世也

前々より沙汰に及らざるが故に
 又々上書に及らざるが故に
 此後には及らざるが故に
 此後には及らざるが故に
 此後には及らざるが故に
 此後には及らざるが故に
 此後には及らざるが故に
 此後には及らざるが故に

四月九日

京野馬のり

吉野のり

此神御中まこと物との御こと
 子一のり

午の月

宵半院福女に因りて
 午の月には及らざるが故に
 此後には及らざるが故に
 此後には及らざるが故に
 此後には及らざるが故に
 此後には及らざるが故に
 此後には及らざるが故に
 此後には及らざるが故に

今夏

青平院

権持沙汰事相候方由件
候事申付申付候事申付申付
上上上上上上上上上上上上

五月卯日

奉願之書

奉願之書

平五月十日

相取立度向迄一因其川より十人乘一被
四乗乗より八人乗一被より十月六日封倉
より白紙南より一海より御取立より道迄候紙
書奉取候より道より一海より御取立より書奉取候より
書奉行より書奉行より書奉行より書奉行より書奉行より
紙より書奉行より書奉行より書奉行より書奉行より
五月十日

持来少少人河内多中、
方少少人色、
沙月方少少人方少少人

一筆波少少人胡形、
再川少少人少少人一、

八八少少人波少少人、

封列少少人龍、

乃波少少人列、

後波少少人波、

少波少少人波、

書少波少少人波、

白月白

少平少波少少人

少平少波少少人

少平少波少少人

朝鮮漢信人

一 我々も、（一） 慶長五年（一六二四）に、（二） 日本に、（三） 来りて、（四） 大
一 宗（一）の、（二） 難（三）に見（四）る（五）に、（六） 日本（七）の、（八） 宗（九）の、（一〇） 一（一一）般
一 宗（一二）の、（一三） 難（一四）に見（一五）る（一六）に、（一七） 日本（一八）の、（一九） 宗（二〇）の、（二一） 一（二二）般
一 宗（二三）の、（二四） 難（二五）に見（二六）る（二七）に、（二八） 日本（二九）の、（三〇） 宗（三一）の、（三二） 一（三三）般
一 宗（三四）の、（三五） 難（三六）に見（三七）る（三八）に、（三九） 日本（四〇）の、（四一） 宗（四二）の、（四三） 一（四四）般
一 宗（四五）の、（四六） 難（四七）に見（四八）る（四九）に、（五〇） 日本（五一）の、（五二） 宗（五三）の、（五四） 一（五五）般
一 宗（五六）の、（五七） 難（五八）に見（五九）る（六〇）に、（六一） 日本（六二）の、（六三） 宗（六四）の、（六五） 一（六六）般
一 宗（六七）の、（六八） 難（六九）に見（七〇）る（七一）に、（七二） 日本（七三）の、（七四） 宗（七五）の、（七六） 一（七七）般
一 宗（七八）の、（七九） 難（八〇）に見（八一）る（八二）に、（八三） 日本（八四）の、（八五） 宗（八六）の、（八七） 一（八八）般
一 宗（八九）の、（九〇） 難（九一）に見（九二）る（九三）に、（九四） 日本（九五）の、（九六） 宗（九七）の、（九八） 一（九九）般
一 宗（一〇〇）の、（一〇一） 難（一〇二）に見（一〇三）る（一〇四）に、（一〇五） 日本（一〇六）の、（一〇七） 宗（一〇八）の、（一〇九） 一（一一〇）般
一 宗（一一一）の、（一一二） 難（一一三）に見（一一四）る（一一五）に、（一一六） 日本（一一七）の、（一一八） 宗（一一九）の、（一二〇） 一（一二一）般
一 宗（一二二）の、（一二三） 難（一二四）に見（一二五）る（一二六）に、（一二七） 日本（一二八）の、（一二九） 宗（一三〇）の、（一三一） 一（一三二）般
一 宗（一三三）の、（一三四） 難（一三五）に見（一三六）る（一三七）に、（一三八） 日本（一三九）の、（一四〇） 宗（一四一）の、（一四二） 一（一四三）般
一 宗（一四四）の、（一四五） 難（一四六）に見（一四七）る（一四八）に、（一四九） 日本（一五〇）の、（一五一） 宗（一五二）の、（一五三） 一（一五四）般
一 宗（一五六）の、（一五七） 難（一五八）に見（一五九）る（一六〇）に、（一六一） 日本（一六二）の、（一六三） 宗（一六四）の、（一六五） 一（一六六）般
一 宗（一六七）の、（一六八） 難（一六九）に見（一七〇）る（一七一）に、（一七二） 日本（一七三）の、（一七四） 宗（一七五）の、（一七六） 一（一七七）般
一 宗（一七八）の、（一七九） 難（一八〇）に見（一八一）る（一八二）に、（一八三） 日本（一八四）の、（一八五） 宗（一八六）の、（一八七） 一（一八八）般
一 宗（一九一）の、（一九二） 難（一九三）に見（一九四）る（一九五）に、（一九六） 日本（一九七）の、（一九八） 宗（一九九）の、（二〇〇） 一（二〇一）般
一 宗（二〇二）の、（二〇三） 難（二〇四）に見（二〇五）る（二〇六）に、（二〇七） 日本（二〇八）の、（二〇九） 宗（二一〇）の、（二一一） 一（二一二）般
一 宗（二一三）の、（二一四） 難（二一五）に見（二一六）る（二一七）に、（二一八） 日本（二一九）の、（二二〇） 宗（二二一）の、（二二二） 一（二二三）般
一 宗（二二四）の、（二二五） 難（二二六）に見（二二七）る（二二八）に、（二二九） 日本（二三〇）の、（二三一） 宗（二三二）の、（二三三） 一（二三四）般
一 宗（二三七）の、（二三八） 難（二三九）に見（二四〇）る（二四一）に、（二四二） 日本（二四三）の、（二四四） 宗（二四五）の、（二四六） 一（二四七）般
一 宗（二四八）の、（二四九） 難（二五〇）に見（二五一）る（二五二）に、（二五三） 日本（二五四）の、（二五五） 宗（二五六）の、（二五七） 一（二五八）般
一 宗（二六一）の、（二六二） 難（二六三）に見（二六四）る（二六五）に、（二六六） 日本（二六七）の、（二六八） 宗（二六九）の、（二七〇） 一（二七一）般
一 宗（二七三）の、（二七四） 難（二七五）に見（二七六）る（二七七）に、（二七八） 日本（二七九）の、（二八〇） 宗（二八一）の、（二八二） 一（二八三）般
一 宗（二八四）の、（二八五） 難（二八六）に見（二八七）る（二八八）に、（二八九） 日本（二九〇）の、（二九一） 宗（二九二）の、（二九三） 一（二九四）般
一 宗（二九九）の、（三〇〇） 難（三〇一）に見（三〇二）る（三〇三）に、（三〇四） 日本（三〇五）の、（三〇六） 宗（三〇七）の、（三〇八） 一（三〇九）般
一 宗（三一〇）の、（三一〇） 難（三一〇）に見（三一〇）る（三一〇）に、（三一〇） 日本（三一〇）の、（三一〇） 宗（三一〇）の、（三一〇） 一（三一〇）般

淳和元年

年二十あ

田デウシセキ

同六十日

姜カクアニ

同五十一

金キヅフキ

同四十六

金キイルセキ

同三十八

秋アキセコバリ

同三十一

金キガニセキ

同三十一

田デトリトギ

同二十二

金キハコゴニ

同二十八

田デヲルボギ

同二十一

申シタイイセキ

本門

年二十八

田デイルナニ

同五十二

朴ハクノラキ

同六十一

本ホノクムガニ

同三十七

朴ハクスギ

同二十七

同二十八

同二十九

同三十八

張チヤクカイサニ

平ユコリセニ

金ムイビリ

李リサニギギ

右四葉母々々々

船具并下等也

一重一被とららば

一酒八帖

一酒乃々々々

一芥子一挺

一算一

一蛇お一

一湯二

一之の版板八

右右四葉母々々々

一酒乃々々十三也

一 湯一

一 子の服梳七

一 菓の袋三

一 匙十本

一 細二帖

一 芥一握

一 算一

一 地おこし一

あまの川くまのあめ

空

辰十月十二日

朝鮮國禮曹大人 閣下

逖仰

貴國肅清就報

本邦休泰粵

貴國慶尚道甘川生民壹船拾名同道舊草梁生民壹船捌名上干

十月六日漂寓弊州鰲浦審問情狀乃云同月四日貳船相共出漁於

巨濟之外洋同五日夜遇風濤嶮舊草梁之船折櫓甘川之民欲救而

櫓木又損各要寄船于地方不能奈之何任吹萍流至此也仍給與衣糧

緝理船械一併發還焉客臘二十日發程俄遭狂風各船漂散舊草梁

和叔一平之江时是又措之新以与何家地力之
清者以故程成文。以凡流流注中岁以
依之如流捕中时。在程未流与之一併之
致还以表之。客臘去一日。波海。改。至。凡。暴。起。
各如漂散。一。日。中。梁。者。亦。在。中。打。回。
翌日。一。日。致。浦。波。漂。之。一。日。后。能。被。之。接。
以。乃。身。具。川。者。一。般。入。者。同。日。海。建。筑。不。循。经。
以。海。者。致。建。境。之。一。青。水。之。故。

二月日

日本國對馬州太守拾遺平公 閣下

書枉敬審

興居珍衛慰豁倍品二船漂氓既蒙

拯濟又

勤資送苟微

隣誼之篤何以臻此矧茲

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 閣下, 敬審, 興居, 珍衛, 慰豁, 倍品, 二船, 漂氓, 既蒙, 拯濟, 又, 勤資, 送苟, 微, 隣誼, 之, 篤, 何, 以, 臻, 此, 矧, 茲]

佳貺感鏤無已聊將菲儀粗伸遠悰統希

照亮不備

丁巳年七月 日

禮曹參議申

晚

人參壹劬

虎皮壹張

豹皮壹張

白苧布伍匹

白綿紬伍匹

黑麻布叁匹

白木綿拾匹

花席參張

四張付油菟貳部。

黃毛筆參拾柄

真墨參拾笏

際

丁巳年七月 日

考札致請見公任事與舊是是應在
 以多身任公任事與舊是是應在
 法字佳之既忘矣身任公任事與舊是是應在
 法投魚感謝亦身任公任事與舊是是應在
 別深之也致進履之公使

七月日

Handwritten text in cursive style, likely bleed-through from the reverse side of the page. The characters are faint and difficult to decipher.

年六月晦日

Handwritten text in cursive style, likely bleed-through from the reverse side of the page. The characters are faint and difficult to decipher.

書の徳は自ら松竹の島嶼の草花に
持来し如く此の動の如く此の如く此の如く
之の如く此の如く此の如く此の如く
此の如く此の如く此の如く此の如く
此の如く此の如く此の如く此の如く

對馬の上の如く此の如く此の如く
此の如く此の如く此の如く此の如く

此の如く此の如く此の如く此の如く

此の如く此の如く此の如く此の如く

平六月二十日

此の如く此の如く此の如く此の如く
此の如く此の如く此の如く此の如く
此の如く此の如く此の如く此の如く

昔は女もあつたわらうと云ふはさういふ事
はなしてはなしてはなしてはなしてはなして
子もあつたわらうと云ふはさういふ事
はなしてはなしてはなしてはなしてはなして
昔は女もあつたわらうと云ふはさういふ事
はなしてはなしてはなしてはなしてはなして
子もあつたわらうと云ふはさういふ事
はなしてはなしてはなしてはなしてはなして
昔は女もあつたわらうと云ふはさういふ事
はなしてはなしてはなしてはなしてはなして
子もあつたわらうと云ふはさういふ事
はなしてはなしてはなしてはなしてはなして

上

昔は女もあつたわらうと云ふはさういふ事
はなしてはなしてはなしてはなしてはなして
子もあつたわらうと云ふはさういふ事
はなしてはなしてはなしてはなしてはなして
昔は女もあつたわらうと云ふはさういふ事
はなしてはなしてはなしてはなしてはなして
子もあつたわらうと云ふはさういふ事
はなしてはなしてはなしてはなしてはなして
昔は女もあつたわらうと云ふはさういふ事
はなしてはなしてはなしてはなしてはなして
子もあつたわらうと云ふはさういふ事
はなしてはなしてはなしてはなしてはなして

相尋中らり交りて今道中徳より
 ありて持し何しと云ふ事ありと
 書向ふ事なりと下りぬる事
 今道中徳よりありて持し何しと云ふ事ありと
 書向ふ事なりと下りぬる事
 今道中徳よりありて持し何しと云ふ事ありと
 書向ふ事なりと下りぬる事

唯中書也
 西遊
 之類なり

中書也

尤蒙之。由中平判書。一。汝家。平判
... (faded text) ...
... (faded text) ...
... (faded text) ...

對馬國

一 人数 千貳百八拾 冬人

上縣郡

但高平年六月 七歲 夏

内
冬千百八拾貳 冬男
冬千百 冬冬人女

對馬國

一人殺九千七百六拾七人

卜縣部

從萬曆六年六月之殺
七歲以上

內

穿衣者八拾六人男

四百六十七人女

肥前國

一人殺六千九百拾七人

基肄郡之月

從萬曆六年六月之殺
七歲以上

內

穿衣者八拾六人男

二千九百八拾七人女

肥前國

一人殺二千八百七拾九人

養父郡之月

從萬曆六年六月之殺
七歲以上

內

穿衣者九拾六人男

千八百八拾六人女

人殺合式万六千五拾人

其方官年百九拾四男

内 其方千官官拾六人女

所系平比寺社願云云

右志對馬國上縣郡下縣郡肥前國

其基辭郡卷長又郡之月宗對馬守願分

男女人殺書面之世云云

元文二年八月九日

宗對馬守願

其目衆之志云

所勘定所

右科成江村帳内家六中其書紙云云

此帳内之世世紙云云

其判之書之方中其判之世紙云云

其目衆之志云其判之世紙云云

右帳内之書代家之事書云云

相徳

對馬國

肥前國

上縣郡

下縣郡

基肄郡

壺屋郡

人教

音

但

袋ノ書ニ御名留名

書ノ仁

帳ノ仁曰清名留名

書ノ仁曰清名留名

宗對馬守内

春日龜之丞

年九月三

去月日存申無方古名月人方と抄書

書ノ仁

仁

對馬古名古名二月の節下

法古古三月古名古名古名

竹中氏古名古名古名古名

對列古名古名古名古名

到終之... 御目見
之仕の... 御目見
之仕の...

九月三日

宗朝鳥... 吾亦久之...

戊午九月十六日

御目見... 自錄...

一切支丹... 御目見... 自錄...

一切支丹... 御目見... 自錄...

弥亦守私腹中
穿鬣令志中
此令依少受
同此民部
少受又能
一古切支丹之款族
能发汝之官
一腹中
并因此民部
以以後不
中達事

一古切支丹之款族
能发汝之官
一腹中

一腹中
并因此民部
以以後不
中達事

中達事

元文三戌年七月十日 宗對馬

三宅月防

市下河野

市下河野

一也

宗對馬

三宅月路書

古利波羅紙上色紙に記す

平九月晦日

朝鮮王廣尚宮の門下骨く漢民十二人
去年十二月長列のん所とく漢民朝鮮
漢民の書く業の書く業の書く業の書く業
お徳の用者お徳の用者お徳の用者お徳の用者
お徳の用者お徳の用者お徳の用者お徳の用者
お徳の用者お徳の用者お徳の用者お徳の用者
お徳の用者お徳の用者お徳の用者お徳の用者

朝鮮漢流人上書

一 漢の漢朝鮮回慶者たの内あ骨く
漢民の沙流の融と用く籍を其の
去年十二月十二人其地回内
加徳の書紙に記す仲立は其の漢民

漁舟或北方、清舟也、故難成、是之橋杭、
 榜舟也、清舟也、凡渡江、口中有、
 居、方、何、而、大、之、好、字、何、州、如、海、人、
 却、世、秋、秋、抱、一、命、也、何、日、分、化、也、
 似、と、好、安、ん、仕、の、望、之、月、去、長、清、の、
 仕、沙、生、の、不、善、也、漁、院、之、樂、也、
 沙、石、の、二、月、十、八、長、清、也、和、と、何、
 化、と、仕、の、長、列、の、清、舟、の、商、虎、を、
 先、地、也、江、の、難、也、仕、合、也、
 一、候、之、家、方、の、風、也、也、
 遊、と、合、也、
 漁、民、若、年、年、

年、中、二、
 口、中、九、
 口、中、九、
 口、三、十、

朴、テ、ク、ハ、ク、
 車、ハ、キ、
 李、シ、ト、ギ、
 李、ト、グ、寸、

口二十九

口二十

口十九

口二十

口二十

口二十一

口二十

口十九

口十六

朴カグサニ

趙カイトギ

鄭ボツ千ヤギ

羅ホムサリ

朴千ヤグヲニ

令グリソ

李千サミ

令センシユキ

令クイセギ

和具并名

一和一艘 長寸指尺
換ニ尺

一楫一尺

一榜或延

一官一尺

一舟半一尺

一網一尺

一楫を千

一舟を千

一舟の尺を尺

一舟を十尺

一舟を尺

一舟を二十六

一 腰刀十三

一 込巾二

一 甲込巾一

一 笠六

一 髪巻二

一 巾巻六

一 切子の飯碗一

一 口籠十三

一 小刀三

一 柳三

一 ぬき一

一 双巻一

一 糸車一

之

二月九日

朝鮮國禮曹參議權

補

奉復

日本國對馬州太守拾遺平公 閣下

護船特來

華札隨至就審

啓居冲裕慰浣實深漂海人口既

垂撫存又

勤津送

鄰誼彌篤豈勝欣謝別幅

珍品尤荷

厚意土宜回敬良愧菲薄統希

崇照庸此不備

戊午年五月 日

禮曹參議權

簡

人參壹劬

虎皮壹張

豹皮壹張

白苧布伍匹

白綿紬伍匹

黑麻布叁匹

白木綿拾匹

花席叁張

四張付油花貳部

黃毛筆參拾柄

真墨參拾笏

際

戊午年五月 日

禮曹參議權

福

去札及沙人... 禮曹參議權... 戊午年五月... 際... 真墨參拾笏... 黃毛筆參拾柄... 四張付油花貳部

六月日

沙用者平河迄者平河迄武美上
沙用者平河迄者平河迄武美上
沙用者平河迄者平河迄武美上
沙用者平河迄者平河迄武美上
沙用者平河迄者平河迄武美上
沙用者平河迄者平河迄武美上
沙用者平河迄者平河迄武美上
沙用者平河迄者平河迄武美上
沙用者平河迄者平河迄武美上
沙用者平河迄者平河迄武美上

沙用者平河迄者平河迄武美上
沙用者平河迄者平河迄武美上
沙用者平河迄者平河迄武美上
沙用者平河迄者平河迄武美上
沙用者平河迄者平河迄武美上
沙用者平河迄者平河迄武美上
沙用者平河迄者平河迄武美上
沙用者平河迄者平河迄武美上
沙用者平河迄者平河迄武美上
沙用者平河迄者平河迄武美上

一書及略之作

行衣極法使生之取物給金上德凡
中老以交後記曹參判迎館到本
仕分所法好之乃金之心上本

八月十日

松平左近將景
松平信直守景
中安中將守物次

朝鮮國禮曹參判大人 閣下

南訛届候恭惟

貴國鎮寧翹祝無疆

本邦同泰粵

東武新有

國孫誕生之慶域内榮幸茂大於焉因修

善鄰交誼差正官平誠一都船主藤正泰謹用申稟末錄瑣品

聊抒鄙悰只冀クハ

采贖セリ更新シ

崇養セリ肅此不備

元文三年戊午四月 日

對馬州太守拾遺平

義始

日本國對馬州太守拾遺平公 閣下

槎便忽届

華翰隨至仰認ム

貴邦新有在抱之慶其在隣好曷勝欣賀別幅

佳貺深用感荷不腆土宜粗申回敬惟冀クハ

興居順序益珍クハ不備

戊午年六月 日

禮曹參判李

春躋

本國... 野...

日本國... 閣下

人參貳觔

虎皮貳張

豹皮貳張

白苧布拾匹

白綿紬拾匹

黑麻布拾匹

白木綿參拾匹

書を求むる方同くはる中書に物名、抄あり
月日人存東抄あり。向後とあり。中書に
竹中氏抄とあり。新官法海河野馬と
抄動向書物あり。傳とあり。御書
付方々のあり。傳とあり。御書とあり。
抄傳とあり。抄あり。傳とあり。抄あり。
富文伝、抄傳とあり。抄あり。先は伝あり。
江の書中とあり。抄あり。後とあり。抄
中書とあり。抄あり。抄あり。抄あり。
富文大なるあり。抄あり。抄あり。抄あり。
抄あり。抄あり。抄あり。抄あり。抄あり。
抄あり。抄あり。抄あり。抄あり。抄あり。
抄あり。抄あり。抄あり。抄あり。抄あり。
抄あり。抄あり。抄あり。抄あり。抄あり。

抄用者抄平抄是とあり。抄あり。抄あり。
抄あり。抄あり。抄あり。抄あり。抄あり。

正書お後子白た紙く

竹中氏傳沙遊生のお書紙後物部玉子

諸官お使八月十日官到列海物お事

所お同所、御島お然前向はは紙書

泰紙之書物お在在九日お紙書と紙

傳之九日紙といふ所抄く一筆お事

中替お物伝はるるお紙お信紙お紙

紙紙の紙お事しと書と紙といふ

十月十日 室町二年 吉原久之助

一筆紙書といふ

公方信 大洲信 竹中氏信

沙紙短紙書紙沙紙お紙紙紙紙紙

竹中氏信沙遊生のお書紙後物部玉

諸官お使お後九月十日官到列海物

今九日紙書向はは紙書紙書紙書紙

中江氏禮曹奉詔書後乃沙撈兒
氏之世族也予之得見此書後乃

九月九日

松平左近將監
松平清直守
女身中務右衛門
松平能也守

松平右京左衛門

嘉永三年八月廿一日
在松平

朝鮮國禮曹奉詔書

禮

奉書

日本國對馬州太守拾遺平公

閣下

逖惟辰下

動止清忠嚮聞

貴邦新有

國孫之慶其在交好之誼豈勝欣喜茲遣象官用申賀儀兼將賤品表此遠忱

統希

崇亮不備

日戊午年六月六日

別幅

人參伍劬

虎皮參張

豹皮參張

白苧布拾匹

白綿紬拾匹

黑麻布拾匹

白木綿參拾匹

花席拾張

霜花紙拾卷

花硯參面

四張付油毫伍部

黃毛筆參拾柄

真墨參拾笏

際

戊午年六月

日

和

一筆波磔上之曰沙望勝之
 西元海軍之書以物志之
 濟國源柳之輕 沙際波之由
 物志仕隣交之方 曰飲去之志
 身存之右 曰程初為之 上之新使
 序之 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰
 之夜

六月

Handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page. The characters are faint and difficult to decipher.

十月十二日

Handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page. The characters are faint and difficult to decipher.

香

先年上上妙法... 對馬... 口... 中... 此... 已...

十月十日

香泉之...

一筆波...

公方... 竹... 此... 以... 此... 此... 此...

宗和任今在少元先執事列傳也
抄之如世後之令一之氏是公也
傳之

九月在少

傳之

女中替之痛次

年十一月在九日

田代沙从台高秋而繁浩之之田高操也
之後田代海台台也其年操毛之也
書抄法之之田代書也其年替之痛次
之書之其年田代書也其年之書之其年
之書之其年田代書也其年之書之其年
之書之其年田代書也其年之書之其年

肥前國白旗之基難其長安向那
操毛之慶

一田畑口千六百或後水

田畑口之千六百或後水八年之傳也

同如方之百七十九名在斗五林除

古之商秋兩繁浩水換免住也

二月十九日

許名

古之書子何如也

年十二月十七日

胡解國全行通之因是也之百姓十二人
商之二月取也之因之河底法賦所之
物解下之送之知經書來賦之也
物之今日之也之也之也之也之也
物之也之也之也之也之也之也
進之也之也之也之也之也之也
之也之也之也之也之也之也

口之費

胡解國全行通之因是也之百姓十二人
商之也之也之也之也之也之也
之也之也之也之也之也之也
之也之也之也之也之也之也

送年之知送以書來後送為其法依
力涉所見為人聖書其年如其書也
書行如後者之云云

十二月十七日

許名

抄紙書子書曰古唐紙也

許書物如家書付

昭市內水清於法藏浦流也朝鮮人送此書
法藏書卷後之也初云別稿

朝鮮漢流人口之書

一秋之後朝鮮國今亦通之因常山之古禮
其於十之二一形之亦紀在在總禮之五年
十一月之常山之帆日之曰在之因法行上
之商實往古之侯之心莫業行細上之書未
也個而年之了以法行向帆之長去而風和
其之之構格亦換一也之疏清和風漂流
仕日之官書其何國之之也之字外

以知早速海人如令形人抱去清之日以戰勝
 中後也知法口形之極也極其亦其山也日
 十二日彼不如此之... 其痛之在江也其
 其也七... 其也... 其也... 其也...
 長... 其也... 其也... 其也...
 其也... 其也... 其也... 其也...
 一... 其也... 其也... 其也...

漢氏長年...

口三十一	李一三セギ
口三十二	李一三セギ
口三十三	李一三セギ
口三十四	李一三セギ
口三十五	李一三セギ
口三十六	李一三セギ
口三十七	李一三セギ
口三十八	李一三セギ
口三十九	李一三セギ
口四十	李一三セギ
口四十一	李一三セギ
口四十二	李一三セギ
口四十三	李一三セギ
口四十四	李一三セギ
口四十五	李一三セギ
口四十六	李一三セギ
口四十七	李一三セギ
口四十八	李一三セギ
口四十九	李一三セギ
口五十	李一三セギ

日二十九

許トクハニ

日二十

盧シユサニ

日二十七

金サハニ

日二十八

朴千ヤヅム

日廿九

李センヅ

日三十

任テヅニビ

江一渡

長サ九舟
横ニテ舟ナ

一橋ニ女

一帆ニ法

一橋ニ鏡 持

一昔九夜

一昔三の夜ニ夜

一昔六の夜ニ夜

一昔八の夜ニ夜 持

一昔一の夜

一船半斤

一水桶三

一小桶一

一黄板九段

一筐二段

一草鞋包三筒

一布一

一草鞋包三筒

一草鞋三

一草鞋一包

一草鞋一

一草鞋一

一草鞋一

一草鞋一

午丑月七日

日本國對馬州太守拾遺平

義如

奉書

朝鮮國禮曹大人 閣下

緬惟

貴國泰治

本邦同揆繫有漂船坐者十三名搬問原係則

貴國全羅道榮山居民也客歲十二月初六日到同道珍島而

帶米木等物買魚菜竹器等物而本年二月初八日將還

向榮山之際洋中西風暴起船械損折失地所據任風漂蕩

同十四日僅僅至

本邦五島之門^ニ岨^ニ島津吏^ノ拯濟領主^ノ撫恤^ス送諸長崎廳司

轉

啓^レ循規附^ス吾有司轉遞如此本月初七日到著弊州因給與

衣糧修整船楫^ヲ差藤貞賴^ニ以送還焉土宜雖薄

莞留^セ幸甚肅此不備

元文三年戊午五月 日

對馬州太守拾遺平

義如

一^ニ貴國^ノ全羅羅道^ノ宋山之居民
一^ニ船十二名^ノ米本^ト賑^テ予^ニ也上年十二月
一^ニ可^レ分^ク此^ノ語^ト上^ニ紙^ト與^テ米^ト竹^ト器^等
物^ト也^ノ價^ノ更^ニ九^ト今年^ノ二月^ノ八日^ノ以^テ送^ル
由^レ帆^ノ之^レ靜^ク風^ト海^ト惡^ク船^ノ械^ト損^折漂
洋^ノ數^日回^リ申^ル中^ノ邦^ノ以^テ鳴^ク内^ノ議^ス

鴻之令心向願主之此乞有之長發
之乃送

公儀之送送也業內少受少仍送送
之送事之與世方家類之送也後
高之古之樂品之之之依之衣糧木
治其之書梅之補之對信之藤負之
古附之送還之作之與之之之
別派之送送送之書書世之海

日本國對馬州太守拾遺平公 閣下

海路馳使

芳翰遠辱就審

動止清恙輸釋良深漂氓既荷

廩濟又

煩津送苟非

鄰誼安能臻此矧伊

嘉貺領謝 玆將薄儀聊表鄙忱統希

宗亮^{七三}不備

戊午年七月 日

禮曹參議吳

命瑞

人參壹劬

虎皮壹張

豹皮壹張

白苧布伍匹

白綿細伍匹

黑麻布叁匹

白木綿拾匹

花席叁張

四張甘油花貳部

黃毛筆叁拾柄

真墨叁拾笏

除

戊午年七月 日

禮部書錄儀典

命瑞

和

此後札波抄見山深少密勝家
海平甘好作物名深民之
心海送主作外鄰恒之方感謝之少
事心海与物之端下之和平好作
世少之品寸心斗波進說之少

七月日

年十二月廿八日

泲隱居樣。而泲九日年以泲大口

秋之儀法合者之心之在在既及之

沙中書如德以用者如平在也也也也

為身居平回也持多之也也也也也

正月也用者如平在也也也也也

以是之也也也也也也也也也也

書矣矣矣矣矣矣矣矣矣矣矣矣

乃也也也也也也也也也也也也

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

宗氏部大捕合年須冲大合秋上之儀

口上貫

公方様 大納言様 行平代様

宗氏部大捕合年須冲大合秋上之儀

後合之者之儀乃上之儀

口上之儀

宗對馬七月

十二月廿八日

平田登三

右當月之月書其心月法用書之通充

口上貫

大納言様 行平代様 宗氏部大捕合

年須冲大合秋上之儀之日冲合九日

相納之儀其儀法届上之儀

宗對馬七月

十二月廿八日

平田登三

右平年須冲大合秋上之儀之日冲合九日

半切之儀其儀法届上之儀

元文己巳未年正月十日

頃者所至之政益平矣中分之意哉
以爲天子之政所至之治也抑也抑也
也之也之也之也之也之也之也之也
之也之也之也之也之也之也之也
之也之也之也之也之也之也之也
之也之也之也之也之也之也之也
之也之也之也之也之也之也之也
之也之也之也之也之也之也之也
之也之也之也之也之也之也之也
之也之也之也之也之也之也之也

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, appearing as ghostly impressions of the original calligraphy.

中督之物... 此後... 年... 月... 日... 申...

以上无

先... 内...

竹... 沙...

五... 帆...

四... 帆...

三... 帆...

上...

二月十日

浙右

元文定... 三月朔日

今... 沙...

沙... 沙...

只... 沙...

元文正未年

今度國新... 義下沙... 惟... 有... 身... 好... 公... 物... 更... 弘... 儀... 世... 輝... 光... 沙... 元... 正... 未... 年... 女... 二... 歲... 之... 辰... 世... 者... 尚... 分... 養... 子... 子... 預... 伏... 心... 云... 云... 年... 沙... 惟... 之... 節... 惟... 養... 子... 之... 相... 預... 伏... 者... 沙... 元... 正... 未... 年... 若... 不... 之... 辰... 沙... 元... 正... 未... 年... 在... 以... 惟... 子... 預... 伏... 者... 仕... 作... 良... 也... 書... 月... 法... 返... 之... 辰... 之... 辰... 之... 辰...

元文正未年

三月朔日

宗對馬守印判

松平左邊將監殿
松平伊豆守殿
中多中務大輔殿

料紙大書折紙法之上乞細封山宗判封之

元文四年八月廿六日

法皇曰朕并系大坂皇門及右海作身
月輝去法皇系身例之道法中書之道
由皇統書皇德令一切支丹出改定免因際
中中作法皇系身例之道法中書之道
波持系月輝身例之道法中書之道
任法皇系身例之道法中書之道
皇德令一切支丹出改定免因際

法皇曰朕并系大坂皇門及右海作身

一切支丹家門後帝之立解忘今以相改

中作元年

綿武作冲法及書之德亦相守私胸中
去之亦之也之之矣數之家中之者
中之也之是又波金法作處也書也者
中法沙在公并日性氏親大輔家守也者
中中相改作處敬安者云法作筆

一古切支丹之類註者云常々行跡
疑安後之序所行事

一領中古之市之家中者世又之
并同姓或部大輔家系也之望と若
世以後之書成者於有之古早達可

中達事

以

元文四年七月九日

宗對馬守判

判

之宅月路之反

通

市下住家之反

市下住家之反

之宅月路之反

通

古料紙裡付紙上之宅同紙

元文曰己未年九月

利根婚若儀沙妻產沙稅網法者
方沙勤方之儀大日月申格
口口口口口口口口口口口口口口
西之柳沙勤方不相知
沙勤之儀方之儀同書法沙用者
左邊將監柳口口口口口口口口口口
將系古用人口口口口口口口口口口

沙稅網之儀方 沙隱居柳沙勤之儀
喜發書有方口口口口口口口口口口
然方口口口口口口口口口口口口口口
方口口口口口口口口口口口口口口

今度

利根婚若儀沙妻產沙稅網法者
隱居民部大捕方口口口口口口口口口口
方口口口口口口口口口口口口口口

九月三日

宗對馬

原集之部

先例左之沙程祠之部 沙程祠之部

沙節之例之妻及列紙流之部

竹姬若極沙之妻及沙程祠之部之例

利根姬若極沙程祠之部之例

右沙同人柳沙入集出程祠之部之例

竹千代極沙程祠之部之例

右沙同人柳沙之妻及沙程祠之部之例

右沙同人柳山王社 沙宮若沙程祠

之部之例

大綱言極 竹千代極 沙程祠之部之例

沙程祠之部之例

右之先規之妻細書身之部

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

元文四年十二月九日

因代涉控免書付今の涉用番以平
方進將監取の由向る居る人及不違年分
持書中及次にお後の子ぬり涉書付
涉書付大死

肥前國内領分基隸出立文書
控免之元

一 田畠五千九百石

田畠四千五百八拾七石

田畠七百七拾石

右者耆耆秋治水之役免法

十月廿一日

宗對馬守

元弘六年庚申年正月十日

朝鮮國公使臣等謹白
臣等所領海島長官人等
正月十日瓶京若孫滿波濤長朝鮮國
之邊境自有此書卷後之長箱一若孫滿氏
以手書以口言之而身自有此書卷後之
相傳傳用書相傳傳用書相傳傳用書
其是之口口口口口口口口口口口口口口
而後之口口口口口口口口口口口口口口

朝鮮漂流人口書

親之候朝鮮國公使臣等謹白
正月十日瓶京若孫滿波濤長朝鮮國
之邊境自有此書卷後之長箱一若孫滿氏
以手書以口言之而身自有此書卷後之
相傳傳用書相傳傳用書相傳傳用書
其是之口口口口口口口口口口口口口口
而後之口口口口口口口口口口口口口口

魏常王若捕活... 弟... 弟... 弟... 弟...
一... 弟... 弟... 弟... 弟... 弟... 弟... 弟... 弟... 弟...
一... 弟... 弟... 弟... 弟... 弟... 弟... 弟... 弟... 弟...

新... 弟... 弟... 弟... 弟... 弟...

胡... 弟... 弟... 弟... 弟... 弟...

年... 弟... 弟... 弟... 弟... 弟...

回... 弟... 弟... 弟... 弟... 弟...

回... 弟... 弟... 弟... 弟... 弟...

回... 弟... 弟... 弟... 弟... 弟...

回... 弟... 弟... 弟... 弟... 弟...

回... 弟... 弟... 弟... 弟... 弟...

崔^{サイ}二ヨギ
陳^{チン}シメギ
金^{キム}シツサニ
金^{キム}ユリヨギ
金^{キム}ソクセニ
李^リシニ

目二十三

目拾八

目拾八

船具并荷物

一 船一被長八尺五寸

一 櫓大小各一

一 楫二枚

一 櫓二挺

一 水竿八寸

一 船中板及

一 巾履之類

一 葛繩等類

一 着衣被褥

一 帆柁等類

一 諸般小物

一 帆二張

目廿二

朴トリ

趙チヨリ 千五三イ

一 二り二

一 少和去

一 希口

一 坐臥

一 全去

一 芥大小字

一 薄或了

一 漲大小致致

一 友年字致

一 匙指中

一 法輪油去

一 素大小三

一 研石去

一 弟少和去

一 細九信

一 切母字口

望

未
望

朝鮮國禮曹參議吳

命新

奉復

日本國對馬州太守拾遺平公

閣下

槎便忽屆

芳楫隨狂憑審

動止冲裕慰瀉寶深漂海人口既蒙

拯濟又

勤護送倘非

鄰誼之厚安能臻此矧伊

佳貺感謝無已茲將薄儀聊表遠忱統希
崇亮不備

己未年七月 日

禮曹參議吳

命新

別幅

人參壹觔

虎皮壹張

豹皮壹張

白苧布伍匹

白綿紬伍匹

黑麻布叁匹

白木綿拾匹

花席叁張

四張付油花貳部

黃毛筆叁拾柄

真墨叁拾笏

際

己未年七月 日

禮曹參議吳

命新

通稱私戶

除後長補之札亦改詳見作詳
 涉密因之由詳于其好也然其
 家以極洲程又改送部中由隣交
 之方涉述之意之儀少其也詳其
 亦其好作隨而乃將少其也
 改述說之也

七月日

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

日本國對馬州太守拾遺平

義如

奉書

朝鮮國禮曹大人 閣下

新復緬惟

貴國清寧

本邦同揆爰

貴國江原道平海居民一船九名去年十月十一日到全羅道

樂安買米本年正月十六日回帆洋中忽遇颶風損折

船械無力回轉所載穀物投棄過半同二十五日僅存

穀石抛棄の事あり口月未だあり
能く我國瓶名島の着相海に渡り
あり古法を方くし端の事あり
公家下多海に事因り事少く事多し
よの事あり可し事入り事少く事多し
女之弊島の事あり事多し事少く事多し
中江の事あり事多し事少く事多し
〜母の事あり事多し事少く事多し

二月日

梁彥俊

阮嗣清書

六月廿日紫船

六月九日館裏

九月十日歸書

元父初象申八月二日

方熙極冲隱居之志年四月日齡叙
義如極沙初任之志年八月日齡叙
書身乃上之志以乃之志年八月日齡叙
田書之志年八月日齡叙
平山之志年八月日齡叙
山用之志年八月日齡叙
宜之志年八月日齡叙

元父初象申八月二日

元父初象申八月二日

中務大輔秋良政參上治用人少馬
今在馬口面後主付少方
家山中少中少少少少少少
書月九記

宋民部大輔方熙

右主事保十七壬子年九月十日
沂城口少馬 石湯居少少月其年
二十七歲 少少少少

宋對馬守義如

右主事保十六辛亥年十二月廿三日
沂城口少馬 石湯居少少月其年
十六歲

享保十七壬子年十二月十六日
其年十七歲 少少少少

少上

八月

甲寅年十一日

清國總領事東大坂守了致書譯者
自願以此為多餘之利之利也
之世清國領事德令切支丹也
相波海濱多餘之利也
吾老之令平心之令也
其之令也
迨之令也

東大坂守了致書譯者
相波海濱多餘之利也

一切支丹之利也

中作之平也

作出之利也
其之令也
下之利也
其之令也

下二... 継ぎ... 一古切... 継ぎ... 一領... 田代... 山代... 事一

以

元文会... 宗村... 宗村

松波... 一也

中多... 一也

中多... 一也

松波... 一也

右料... 一也

元文の唐中十月三日

河津春沙に届書福と御守作の御書
喜る毎る書も御書沙用人の御書乃如
沙書面たり記之

本月十日東慶山

河津諸之御書福と御書相動よ山

十月三日

河津

元文の唐中十月三日

河津春沙に届書福と御守作の御書
喜る毎る書も御書沙用人の御書乃如
沙書面たり記之

御書福と御書相動よ山
御書乃如
御書面たり記之

一田方子百格五格

右之田粘忠旨控毛往心之

古方子之

心者

和成... (faint vertical text)

元文公... (vertical text on the left edge)

朝鮮國名又高道... (vertical text)

十二人... (vertical text)

言津浦... (vertical text)

古... (vertical text)

康... (vertical text)

内... (vertical text)

辰... (vertical text)

如... (vertical text)

大連府署信の抄りありて以て諸事備せり
 抄後の子母も此の年相文書及び手書
 箱に手書押札諸紙あり此之

此の紙は此の年相文書及び手書
 の紙は此の年相文書及び手書
 抄りありて以て諸事備せり
 抄後の子母も此の年相文書及び手書

心之文

一 朝鮮國慶尚道之日 龜浦之漢軍三人

出船之被之放風去之 十月廿九日別
 之津浦之放風者

一 同里果之海及八人出船之被之放風
 去之 十月廿九日別

一 同里全理乃之日 唐付之漢民男女
 十人出船之被之放風去之 十一月

女二乃乃海之日 估如海之放風者
 古くは漢民朝鮮中より使名送るなり

長禮曹參議之送給由事書信之儀之
據氏之書并名之器具等物之
書月相送之乃之儀之

二月十日

濟石

新設古事書之如之包古送儀

之送書箱袋之書

石州之津浦の據者之朝鮮人送之
之長禮曹參議之送給并別幅

長州須津浦の據者之朝鮮人送之由

之長禮曹參議之送給并別幅

之津浦の據者之朝鮮人送之

之長禮曹參議之送給并別幅

之包古書

石州之津浦の據者之朝鮮人送之

之長禮曹參議之送給并別幅

之新荷物之書月之通

朝鮮漢族人口書

一 秋之俄對能國慶尚道之日會漢族
不之漢族之與少之有之四月冬之月
籍均人數十二人其組許之住之及俄之
逆風子也地子之漕之及俄之風
漢族仕回女九之少之河之及之海雷對
之少之漢族之與揚之船之住之及之
人殺之味之住之及之二人也之少之漢族

法之之漢族之與之少之漢族之十人
在也之與之少之漢族之浦人出令
石見之漢族之津浦之浦人出令
夫之少之漢族之浦人出令
少之漢族之津浦之浦人出令
十之少之漢族之津浦之浦人出令
回女之長之漢族之津浦之浦人出令
漢族之津浦之浦人出令

長治初年 惟正 今 對 府 若 船 上 長 治
表 中 中 之 以 以 此 之 之 之 之 之 之
之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之
一 親 之 宗 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之
新 加 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之

源氏名年

年

日二十六

金フセニイ
季ヲニイ

日二十二

俞フセイ

日二十

全トクシユ

日二十八

鄭フギ

日二十五

趙フンゴリ

日二十五

朱テヘキ

日二十二

鄭マクニヨキ

日二十二

趙マニイ

日十七

鄭トルモ子

製藥并荷物

一 檣二本他本小

一 楫二枚

一 櫓二挺

一 板半打夜

一 丸五本十字本

一 板并丸五小切十六他本小

一 細切之十送

一 薑葱帆切之二枚

一 着白之十二

一 以巾一

一 股門十八

一 以

申
三月廿一日

胡群 潘溪人 以書

一 秋之儀朝鮮國慶尚道之日盛德

上之儀漢民之與也之有也去之十月

女之儀之有也之人類之人之能之

はし之儀之有也之儀之西風之

族之儀之有也之儀之風流之

子天行也之有也之儀之掛山

流之儀之有也之儀之秋夜抱日

比之儀之有也之儀之十月女之長州

流之儀之有也之儀之長流之

流之儀之有也之儀之長流之

流之儀之有也之儀之長流之

流之儀之有也之儀之長流之

流之儀之有也之儀之長流之

流之儀之有也之儀之長流之

流之儀之有也之儀之長流之

流之儀之有也之儀之長流之

流之儀之有也之儀之長流之

漢民名茶年

年五十九

日五十八

日五十八

日五十八

日五十四

日五十四

日五十九

日五十二

朴クムテニ

金子ニフキ

車ヲコサニ

金コリフキ

金クムナニ

金セブキ

田テナニ

金サセニ

船具并荷物

一 船

七廿五寸

一 櫓

一 帆

一 楫

一 櫓

一 水

一 ありかた一

一 本所二

一 柳まじり口

一 鑿つてふ

一 塙地大小二

一 着也之十一

一 膠門十口

一 改申又

一 かこの飯椀口

一 目蓋一

一 匙六本

一 証上

申
二月廿一日

朝鮮漢人の書

一 親し紙朝鮮國全道道白唐津

可く漢民の事も言ふは去つて二十一年三月廿一日
 甲午女一人の船が相模沖に流れてはてしなく言ふ事
 俄逆風の吹来此方の船は舟は月十五に船頭
 換へて流流は同方への船頭は船頭は船頭は
 掛ひて捕人の事も言ふは船が舟に流れては
 三月廿一日舟は舟に流れては船頭は船頭は
 舟に流れては船頭は船頭は船頭は船頭は
 舟に流れては船頭は船頭は船頭は船頭は

女一人は別者船は長崎より舟に流れては
 舟に流れては船頭は船頭は船頭は船頭は
 一機の家方へ来ては舟に流れては船頭は
 船頭は船頭は船頭は船頭は船頭は船頭は

漢民名示并年

- 年一甲午又
- 同二十六
- 同二十六
- 同二十六一

全て子シフ

全上シゴ

全サニイ

目二十

右の人

年二十十二

目二十

目二十

目二十一

目二十一

目十八

全セイニイ

申^ニイコトイ

文^ニツニニヤキ

全イヲルニ

任^ニトニヤキ

全^ニユグトキ

索^ニトツセビ

右の人女

髪并荷物

重^ニ被

七^ニ尋
横^ニ尋

橋^ニ下

帆^ニ張

槽^ニ架

苦^ニ役

一 沙心子

一 多棹子

一 棹子

一 阿白子

一 蒲团七

一 沙在包二口

一 中子十

一 蛇子六

一 壺太小二

一 瓢子

望

中

三月廿一日

日本國對馬州太守拾遺平

義如

奉書

朝鮮國禮曹大人 閣下

春闈伏惟

貴國和輯

本邦穆清爰有漂人一船十名詳問緣由卽係

貴國慶尚道盈德居民上年十月念六日一船一十三人出漁

外洋不期颶風大作無力回轉同念八日夜

漂到

本邦石見州高津浦口觸瀬船破溺死者三人其餘以身僅
免待明尋覓死屍也不知所在於是土人救接州守資給
而送諸長崎廳司轉

啓

東武依例附我有司本月念一日解到弊州因給與衣糧乘駕別
船使藤正久護送之破碎船械一併送納別幅菲品

莞畱爲幸肅此不備

元文五年庚申三月 日

對馬州太守拾遺平

義如

一書之...
 好...
 尚...
 深...
 士...
 寧...
 旅...
 十...

漢江心海遠同遊以波濤虎目八日
夜以津浦江心時書及六三人滿死
仕公德昭昭死骸也為瘞友也
中一更今人家也實性性性性性
如地之津遠也何有也
公儀之遠遊而為青也何也何人
相後也月也一日樂也何也何也
衣料未結與公也一被也何也何也

信之友正久遠也何也何也何也
石品之有集也何也何也何也
送送之遊也何也何也何也
何也何也何也

三月日

禮書

東萊

卷山

日本國對馬州太守拾遺平

義如

奉書

朝鮮國禮曹大人 閣下

花飛春減杏惟

貴國簡靜

本邦盤安爰告

貴國慶尚道盈德居民一船八名上年十月念六日海上作業
忽遭颶風漂蕩十一月初一日僅僅流到

本邦長門州須佐浦州守資給而送諸長崎廳司轉

啓依例附我有司本月念一日到着弊州因給與衣糧修補船

具使平恭綏護還之左幅輜品惟冀

領存肅此不備

元文五年庚申三月 日

對馬州太守拾遺平

義如

一、
好、
慶、
十、
日、
年、
品、
送、
如、

多相後高月廿一日藥品交收者書作
後之各程未結無之如地補日有平恭候
相附波法道法法名輕亦之也別幅
通之之統之之方飯

三月日

禮書

東家
卷上

日本國對馬州太守拾遺平 義如 奉書

朝鮮國禮曹大人 閣下

春末慮惟

貴國寧綏

本邦同軌爰告

貴國全羅道居民男四名女六名乘駕一船上年臘月

念二日出洋捕魚忽遇颶風奈何不得同念六日漂

到

本邦五島佐賀島領主資給關送長崎廳司轉

啓照例附我有司本月念一日解到弊州因給與衣糧

修補船械使橘正房護送之非品佰楫

笑畱是祈肅此不備

元文五年庚申三月 日

對馬州太守拾遺平

義如

一、本邦五島佐賀島領主資給關送長崎廳司轉
啓照例附我有司本月念一日解到弊州因給與衣糧
修補船械使橘正房護送之非品佰楫
笑畱是祈肅此不備
元文五年庚申三月 日
對馬州太守拾遺平 義如

しよの事一有心の家来とて相成高月
廿一日榮品と改出書い信と名釋未
終其の如く福の中橋正房と改改
法道公の程少くも別掲と也と也
後といふ後

三月日

禮書

東本
谷山

朝鮮國禮曹參議金

若魯

奉復

日本國對馬州太守拾遺平公 閣下

星槎遠届

華穢隨至憑審

興居清裕慰沅良深漂海人口厚蒙

拯濟又

勤資送苟非

隣誼安能臻此矧伊

佳貺感謝無已茲將薄儀庸表鄙忱統希
崇亮不備

庚申年五月 日

禮曹參議金

若魯

別幅

人參壹劬

虎皮壹張

豹皮壹張

白苧布伍匹

白綿紬伍匹

黑麻布叁匹

白木綿拾匹

花席叁張

四張付油花貳部

黃毛筆叁拾柄

真墨叁拾笏

際

庚申年五月 日

禮曹參議金

若魯

朝鮮國禮曹參議趙

明謙

奉復

日本國對馬州太守拾遺平公 閣下

槎便忽屆

華槭隨枉憑諦

啓居清裕慰沃良深漂氓旣蒙

濟恤又

勤津送

隣好深篤曷勝感荷別幅

珍品謹領

厚誼不腆土宜聊表遠忱統布
照亮不備

庚申年九月 日

禮曹參議趙

明謙

別幅

人參壹觔

虎皮壹張

豹皮壹張

白苧布伍匹

白綿紬伍匹

黑麻布叁匹

白木綿拾匹

花席叁張

四張付油花貳部

黃毛筆叁拾柄

真墨叁拾笏

際

庚申年九月 日

禮曹參議趙

明謙

朝鮮國禮曹參議趙

明謙

奉復

日本國對馬州太守拾遺平公 閣下

護船特來

華札隨至就審

啓居冲裕慰况實深漂海人口旣蒙

垂恤又

勤津送良荷

隣誼豈勝欣謝別幅

珍品尤感

眷意土宜回敬誠愧菲薄統希

宗照肅此不備

庚申年六月 日

禮曹叅議趙

明謙

別幅

人參壹觔

虎皮壹張

豹皮壹張

白苧布伍匹

白綿紬伍匹

黑麻布叁匹

白木綿拾匹

花席叁張

四張付油花貳部

黃毛筆叁拾柄

真墨參拾笏

際

庚申年六月

日

禮曹參議趙

明謙

